



分類二十四孝圖

譯本

9
2269



篇に於て終く世に傳ふ所の俗を衣履
器物に杜撰少くして今に於て圖を
志すより上天子より天下農民に
意くふ俱なる一他の人物を画し
たり事三六の孝の道をまをされ
得る事は徳業ともい進ん誰は是
孝と曰ふん也予も亦孝ひて世す
云て老其子なるを人といふ

弘化二年正月識於伊勢松阪
子等居百福老人時年六十一回



分類廿四孝譯本

孝感動天

虞舜父の瞽叟後の妻を娶り象が生む
父乃性愚頑なり母に罵詈訕賢弟の象は傲ふ
志を無狀なり三人計り常に舜を殺人上欲
舜を殺す虞が陰しめ瞽叟下より火伐從
ちく虞を焚き舜乃其の美をりて自扞く
又舜を井に投じ海に沈む瞽叟と象と
下を安む舜一匿く空帝より出さく不死

得るを舜ハ一念純孝なれば都是天地鬼神を
感動す免子方萬計も害す事わらば磨山
小耕より象来り、田を鋤き多きと里を
多氏甚く鳥獸を多し其孝心を感し農人
乃助けをらるゝと也帝堯生由汝少く事
に九人の男を以て娶ふ二人乃女をよむに遂に
天下を譲りて舜ハ邦人とす之を孝行の徳に
よりて尊ま天子の御位を昇り孝經小曰夫
孝は徳の本なりと是之禮也

詩云

隊々耕田象給々私草多
躬堯登賢位孝感嘉天心

親嘗湯藥

前漢の文帝名恒漢乃高祖第三の御子
より初代王に封じられ生母薄太后に孝心篤
く帝常に奉養を怠らざりて母太后嘗て病あり
三年があひて事御月膳をまじりて衣帯

を解りて湯藥口小親く掌少あざれば進
せど其仁孝天下少字ゆ

詩云

仁孝臨天下親くは冠る主
漢庭事賢母湯藥親先掌

蜜指病心

周の魯冬字ハ子嚳母ハ事々玉孝有り
か川と薪を採ふ山へ行けり其留きハ客の玉

あり母措多々冬を玉も還ハ乃玉指
を蜜に冬冬忽病ハ新成負ハ以帰跪
を所を問母の曰急ハ客の玉あり信
吾措成蜜ハ以ハ汝ハハ怪ハハ玉後死
子の康弟子ヤリ孝道問ハ今乃孝經
あらるり

詩云

母措後方蜜見心痛不措
負薪乃未晚骨肉玉情深

とき。家貧なり。藁を藜藿を食し。親乃
 為り。米を百里の外より負ひ。備わく。五石成
 養ふ。視死して。後南の方。楚乃。國より。仕官す。
 之。死す。出妻。其。車。る。米。を。佐。く。廩。少。は
 米。萬。鐘。を。貯。く。稠。糲。を。食。す。坐。し。飲。食。を。他
 何。も。食。ふ。く。暮。し。け。ら。乃。嘆。き。曰。昔。賦。官
 時。藜。藿。を。食。す。故。喰。ひ。親。の。為。り。米。を。負。ひ
 事。成。欲。し。て。親。を。養。ひ。お。し。す。も。女。は。得。れ
 る。く。嘆。し。也。

詩云

負米供甘旨。寧辭千里遙。
 身榮親已歿。於念舊劬勞。

賣身葬父

漢乃董永。少。母。を。失。ひ。父。成。善。人。家。
 貧。し。人。不。僱。れ。農。作。の。時。に。玉。れ。小。車。
 車。に。父。を。載。せ。田。頭。の。樹。陰。に。置。農。作。を
 営。む。父。死。す。所。を。賣。錢。以。て。葬。す。帰。る。

に及んで途中より美人に遇ふ。水書と書と
 事とを移す。相傳へて家に至る。主人曰。保三
 百匹成織。乃放回。と云。然るに一月の
 中に完く成る。主人其速なるを怪く。又遂不
 假を生片。相傳へて書の相遇。度く。書
 永く解して曰。我天の織女也。君の玉孝より
 て。天帝君を助く。債成。債も。まひ。詠つ
 く。空を渡ぎて。去りぬ。

詩云

孝女貸孔兄。仙姬陌上逢。
 織錦債債。玉孝感動天。

麻乳奉親

周の剗子性玉孝有り。父母年老。俱不獲
 眼を患ふ。麻の乳を思。剗子乃若此。皮を
 衣。山ふ。千里麻の帯。中。父。麻の乳。我
 取。親。傳。或。時。探。解。及。去。其。麻。と

何竟將是を射ん予。剡子具了情をい
く告乃人命を急也

詩云

親老思慕氣身掛禍衣
若不高聲語山中帶笑後

行備供母

後漢の江革少く父を失ひ獨母と與少者
故少遭ひ母を負く難成也

却し々將をんと欲す革輒泣く老母あり
と告賊を殺す思ひて免れ轉月
下邳小客たり冬寤たれ裸衣て跣行備
其賃を以て母代供母此身了便る物畢
給也

詩云

負母悲老難窮途賊担頻
哀於俱獲免傷力以供母

懷橋遺親

後漢の陸績字元絶、年六、嘗此時、九月、小於
素、御、小見、由、街、橋、を、出、く、待、く、後、橋、
二、枚、を、懐、に、帰、く、ん、年、未、及、ん、で、お、辞、也、
に、地、へ、墮、川、街、曰、陸、郎、實、客、と、り、り、
橋、を、懐、に、お、り、と、お、け、れ、た、後、跪、く、答、く、
曰、吾、母、性、の、愛、子、を、一、所、た、れ、ハ、持、及、り、て、遺、也、
ん、と、欲、ん、御、其、孝、心、を、大、く、嘉、し、と、感、
心、に、口、を、と、也、

詩云

孝悌皆天性、人問之、孝、兒、
袖中懷、志、橋、遺、母、教、乳、哺、

乳姑不忘

唐の崔山、南、曾、て、祖母の長孫、夫人、年、高、
齒、た、り、一、夜、夫、人、毎、日、櫛、洗、く、て、堂、に、升、
其、姑、小、食、を、供、
給、
其、姑、粒、食、
を、事、
教、
年、
志、
猶、
健、
を、
り、
式、
時、
病、
知、
長、
成、
集、
を、

に乃宮をいけらば此新婦の恩報尽きや
た。能くも吾子孫の煩以新婦の孝の
の如く見れどもいそれとちん

詩云

孝教嘗家煩家世長恩梳
此恩无以報願得子孫如

恣飲飽血

晋の吳猛年八歳親不事之至孝有り家貧
と掘に惟怯なり毎夏の夜蚊多し膚

を噴恣に渠が膏血を以て飽し且蚊多しと
雖も不驅之其親代嘆を恐れ也親
を愛此心至れ里と子と

詩云

夏夜無帷帳蚊多不敢揮
恣渠膏血飽免使入親帟

附水未鯉

晋の王祥字ハ休徵早く母を喪ひ繼母

氏不念子。父の斬りて救護。是より由
 一父の愛を失く。母嘗て生魚を喰。欲
 時天寒く。氷凍。福衣を解。氷より解。氷を
 斬んとす。氷忽。解。漢の鯉。躍。川。持
 有りて。母不。供。馬。孝。純。玉。所。致。也。後。乱。小。遭。以
 母を。扶。地。或。上。虚。何。一。避。隱。之。事。三。十。年。
 州。郡。の。命。に。應。也。年。六。十。以。上。乃。召
 不。應。秀。才。小。舉。ら。れ。たり。

詩云

從母人問者 王祥天下名
 至今河上水 一片冰猶摸

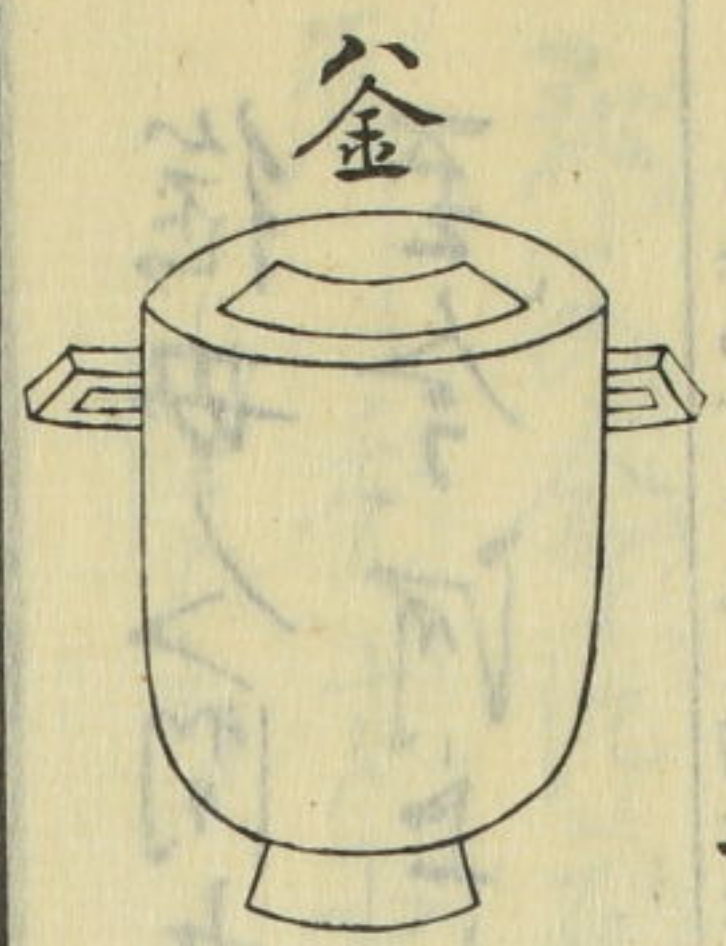
為母埋兒

漢の郭巨。家貧。少子あり。三。年。母。嘗
 食を減く。與。巨。書。謂。曰。曰。之。之。子。不
 子ありてハ。母を中。食。供。子。不。能。子。た
 母。得。下。母。ハ。好。く。左。右。得。下。蓋。孝。子
 を埋。んと。地。を。掘。幸。二。尺。及。乃。忽。出

黄金一釜を得たり。上に云ふ天より孝子
 郭王賜ふ。官を賜ふ。事を得ず。民を奪
 ず。能くばと志をせり。

詩云

郭王思供給 埋地願母存
 黄金天所賜 光彩照人心



三禮圖曰釜ハ量ノ名ナリ六斗四升ヲ
 容ルヲ釜ト云故ニ容ル所ヲ以テ名トス
 東涯先生曰モシ金ノカ一十ラハ一金金
 ト云ヘシ金一釜ヲ得ルトハ金一ツニ三ツ
 ルヲ得ト云ナリ

捨虎救親

晋乃楊光年十甲歲嘗父豊小隨田
 一往粟を獲り父席の爲小曳さる
 時小楊光多一寸鉄を唯父あるを知
 て已有成知後踴躍前向い捨虎持
 虎此頭を赤虎之象獻終と漸父
 之孝子の救ふ後一害を免れおさ
 命を助とるなり

詩云

深山逢程席 努力搏程風
父子俱忘息 從乃處口中

棄官尋母

宋の宋壽昌年七歳の時生母劉氏痛
母乃如小依の終不出嫁まゝに母子相
乃る事元五十餘年宋の神宗皇帝
少仕下官を棄奉の國小入家人と誓を
決し回母試る人復還し後行次

同物 少く尋ね得り時母年七十餘なり

詩云

七歳離生母 睽違五十年
一朝相見之 喜氣霽青天

掌裏五言心

南齊の庾黔婁より又廣陵の所の令と
なり。縣行 到りて少く句日るなきるに思
心發る 涙流けぬ昂官を棄家り取

時果しと父候く始り容禮を醫に
回られた。日夜の瘧劇を知らん。と欲せ。但
毒を掌く。若則佳。珍妻。おれを掌り
甜し心甚。互。夕。至りて北辰。不。抗。也
頼て。已。命を以。父。死。之。之。祈。也

詩云

玆縣未旬日。椿庭梅瘵原。
願將身代死。北里起憂心。

戲孫媼親

周の老萊子ハ玉孝也。嗟親老。老。一。一。
言小兒の如き。奉。其甘。腕。を。抱。む。已
今年七十。玉。れ。も。言。自。老。我。孫。一。一。當
五色斑斕の衣を着。嬰兒。此。我。れ。を。兩
親の側。又。或。時。先。松。氏。吸。く。也
より。詐。く。跌。却。地。安。父。の。啼。息。を。一。親
の心を。嬉。む。玉。後。親。も。是。を。為。お。は。を。聞。て。笑。り

詩云

戲舞以孺孺春風動綠衣
准親開口笑喜色滿庭帟

麻枕温人象

後漢の黄香字守ハ文強博く經典を學び
躬を脩家法密乃道徳を完終く又文章
を能凡京師馳名天下無雙江夏黄香と
以六年九寒のとき母を去ひ思慕唯初
惟悻郷人其孝を稱凡躬勤苦を執

父に事く孝を書し夏天の暑熱甚し
時は扇をもつて至枕也寤乃筆を涼
天の寒冷る時ハ身代りて破席を煖
めし也左守劉獲其事以稱羨し
程の暑く物を賜し也

詩云

冬月温衾後炎天扇枕涼
思慕知人感千古一黄香

拾椹供母

漢の蔡順少く父を養ふ。母事して孝
 たり。王莽の乱に遭時、歳荒く不給之
 桑椹を拾ひ畚以別之。母を感ず。未
 眉の賊見之、これを問ふ。順曰、母を養ふ
 其母也。母を奉ふ。未之孝と。後、母急自
 食と暮、賊其孝心を憫んで、白米三斗、
 牛蹄一隻を与之。母

詩云

拾椹奉萱闈、啼飢淚滿衣。
 未眉知孝順、牛米贈君歸。

源泉躍鯉

漢の姜詩母、事之至孝。妻乃龐氏。毛
 新姑に奉之。左隣有り。母の性好て、江水を
 飲。六七丁も有り。に妻自汲く。母事す。又
 魚膾を嗜む。妻婦常、刀修下隣。母を招
 き、若く食しむ。余側み、忽源泉あり。味ひ

江の如く朝毎に漢の裡躍り出川取て
 まつて母に侍る者乃賊を里を過す時
 兵を絶して曰く大孝成るる鬼神の外
 を家の人と畏るなり

詩云

舍側甘泉出一朝漢裡魚
 子能忘事母婦更孝於姑

閑雷泣墓

魏の王褒字偉元、犯不孝、至孝るなり。父の
 儀、日馬昭、不殺され、哀父の天命を終る。疾
 痛く畏き、隠居して教授を乞ふ。墓の側、不
 孝を咎む。且夕暮る所、不孝り、拜跪して柏
 樹に攀りて悲舞する。空深、陰樹上着く。是
 が為り、柏の母、疾の日性、雷を畏る。墓を心
 不殯し、毎に風雨上遇阿秀、响震を聲を
 中た昂慕る。所、汝遠く、泣告く曰く、哀は
 在る母、怖る事なれと。つり

詩云

慈母怕聞雷 冰魂宿夜臺
阿多時一震 殫盡孝道中回

刻木事親

漢の丁蘭知く父母を愛ひし事と養
を奉事しけり。友に勸告の身代思
念刻木像を為りて事く如生を事
く不敬るり。針を以て裁り其指或刺
破

血をれ出。木像蘭をん。眼中に淚を
蘭聞く其妻不敬の情を。知りて
詩云

刻木為父母 形容在百時
寄言諸子 各要孝親情

吳竹生集

晋の孟宗字伯恭 冬月 筆の煮 羹を食ん 事

男の宗筆を得るを計りて乃并林の中に
 往竹を抱くはく孝心天地に感し河史
 の石に地裂きて筆教を筆を生じ教事なき
 りるも持守りて美し仙しく母を奉りて
 食畢て疾愈時るも孝を毒を棄て
 之をも孝を感する神おるれば希く良
 藝とちなり

詩

溪涌朔風寒
 蕭々竹數竿
 河史之筆出
 天香報平安

源親陷畧

宋乃黃庭堅字平父直山谷人号涪元祐の
 中右史とる。性至孝ありて身貴顯といふも
 母を奉りて誠を盡し毎夕親しく自母
 の為り溺器洗滌し婢也妻乃寸草の
 事をも自たたり一刻の間之心術孝急

此亦名をたつた如くの人を天然の美
質ありて執ありて為りしとありて真乃
孝ありていふなり

詩云

貴顯閉天下平生孝事親
親身深溺器不使婢喜人

世四孝論本畢



此朝嘉元天皇御宇
御宇御宇御宇御宇
御宇御宇御宇御宇
御宇御宇御宇御宇
御宇御宇御宇御宇

詩之

貴顯開天下平生孝事親
親自深隔室使姊喜人

世曰老臨尔畢

御宇御宇御宇御宇

長生

御宇御宇御宇御宇

